

海外レポート

都市の国際連帯で人間を中心に 置いた経済発展モデルの展開を ～『GSEFモントリオール2016』参加記～

岡安 喜三郎(協同総研 理事長)



『グローバル社会的経済フォーラム(略称GSEF)^{ジーセフ}

モントリオール2016』が9月6日から9日までの間、カナダ・ケベック州モントリオール市の国際会議場で開催され、62か国、330都市、9国際団体

から、200人の当局者を含む1,500人余が参加し、所得格差の拡大、激化する社会的排除、解決策の欠如した環境問題等に直面して、国以外の都市や自治体の集団行動を訴えたモントリオール宣言を採択して終了しました。筆者は、日本労協連の代表として参加しました。次回GSEFは2018年、スペイン・バスク自治州ビルバオ市で開催されます。

1. 国際非営利組織としての「GSEF」

GSEFは、^{バグォンスン}朴元淳ソウル市長の提唱で、2013年11月5日～7日にソウルに参集したことに始まります。そこで「ソウル宣言」を採択後、翌2014年11月17日～19日の大会で正式に国際アソシエーション(非営利組織)として発足したものです。構成員は、世界の都市(市町村)と社会的経済団体(国内団体、国際団体など)です。

GSEFは、「グローバルな連帯ネットワークとして、市場経済や、公共経済、社会的経済、エコロジーなどの多元的发展をめざすとともに、社会的経済組織と地方政府の協同を通じて、良質な仕事づくり、公



正な成長、草の根民主主義の進展、持続可能な開発を追求する」ことをビジョンにしています。

GSEFには4つの機関、すなわち総会、議長都市および共同議長、運営委員会、事務局があります。

- ① 総会は会員が指名する代表によって構成される最高意思決定機関で、諸プロジェクト、財政、会員特典などを決めるとともに、議長都市、運営委員会団体の選出を行います。
- ② 議長都市はソウル市、共同議長は^{バグォンスン}朴元淳ソウル市長と^{ソン}宋キョンヨン・ソウル社会的経済ネットワーク理事長です。全て今総会で再選されています。
- ③ 運営委員会は共同代表と総会選出の運営委員団体、次回開催都市の2名の代表で構成されています。日本労協連も2018年まで引き続き運営委員団体になっています。
- ④ 事務局は現在ソウル市に置かれています。

2. イベントとしての「GSEF2016」

「GSEF2016」という言い方はイベント（フォーラム・ディスカッション）をさしています。本参加記ではこれを単に「フォーラム」と呼ぶことにします。

このフォーラムを共催するモントリオール市はフランス語圏では、パリに続く2番目に大きい都市で、ユネスコのデザイン創造都市に選ばれています。芸術的、文化的独自性で有名です。このため、北米でもっとも多く国際行事が開かれる都市の一つとなっています。

モントリオールは社会的経済の発展のための公共政策だけではなく、いくつかの領域で社会的経済の運動が活発なことでも、

全世界に知られています。GSEF2016をモントリオール市と共催する民間団体であるシャンティエ (Chantier de l'economie sociale) は、ケベック州の社会的経済ネットワークと諸機関を結んで支援する役割を果たしており、国際的に認知度の高い機関と紹介されています。



3. フォーラム

今回のフォーラムは、「都市発展のための、地方自治体と社会的連帯経済(略称SSE)の協力」というテーマで、初めてソウルを離れ開催されました。

【運営委員会】

フォーラム開始の前日、国際会議場の道を挟んだ南側のビル (Caisse de dépôt et placement du Québec) で、運営委員会 (Steering Committee) の昼食会と会議が開かれました。

昼食会と会議の日本からの出席は私一人でしたが、韓国の方とは旧知の仲という関

係です。GSEF 共同代表の宋^{ソン} 景^{キョン} 勇^{ヨン} さんの他、ソウル広域自活センター長の尹^{ユン} 延^{ヨン} 燮^{ノク} さんや障碍友権益研究会の金^{キム} 正^{ジョン} 烈^{ニョル} さん、YMCA アジア太平洋協会総幹事の南^{ナム} 富^フ 元^{ウォン} さん(韓国人)も参加されていました。私の隣には、共催団体であるシャンティエの理事長であるジェーン・マルタン・オーサンさんが座っていました。一通りの自己紹介など約1時間半で終了しました。



会議は、フォーラム後のGSEF総会の提案議案の確認です。総会の内容は別項で報告します。ソウル市からは、市長に代わって仕事場労働政策官・社会的経済担当官の姜^{カン} 善^{ソン} 섭^{ソプ} さんが出席していました。

【開会式】

開会式では、モントリオール市のデニ・コデール市長と、ソウル市の朴^{パク} 元^{ウォン} 淳^{スン} 市長が一緒に登壇し、開会を宣言しました。その後、GSEF 共同代表の宋^{ソン} 景^{キョン} 勇^{ヨン} さん(ソウル社会的経済ネットワーク理事長)が挨拶したのち、ジェーン・マルタン・オーサンさん(GSEF 2016 事務局長)が挨拶です。

ジェーン・マルタン・オーサンさんは「社会的連帯経済は、若者、先住民を巻き込む」と発言、その後、ケベック州およびラブラドル州ファーストネイションズ議会代表のギスラン・ピカルドさんが発言。しかも

出だしがネイティブ言語で、参加者のほとんどが解らない。その後フランス語に切り替わり、やっと通訳を通じて聴けることになりました。ピカルドさんは「言語を含む文化問題」を強調したかったようです。先住民の重要な権利として『先住民の権利に関する国際連合宣言』第3条、自己決定権を強調していました。これを聞いた時、沖縄の翁長知事を初めとする県民の主張が重なりました。すなわち、「先住民は、自己決定の権利を有する。この権利に基づき、先住民は、自らの政治的地位を自由に決定し、ならびにその経済的、社会的および文化的発展を自由に追求する。」



【全体会】リレートーク

その後の全体会議では、40ほどの自治体関係者(首長、議員、スタッフ)が一斉登壇してのリレートーク(一言発言)は、次々に「雇用」や「社会的統合」の発言が続き、圧巻でした。主な発言を紹介します。



開催都市がフランス語圏ということもあり、アフリカのフランス語圏からの自治体からの参加が多い印象でした。

米ウィスコンシン州の市代表からは、「アメリカの75%が貧困に陥っている。不平等の拡大の阻止、経済の再構成のために社会的経済が必要だ」と発言があり、アフリカ・マリのバマコ市長は「連帯社会は必要。女性の力は雇用によって、様々なレベルの仕事づくり、食べ物をはじめとした貧困とのたたかいができる」と発言していました。

モンドラゴンの女性市長は「私たちの市は協同組合なしには進まない」と述べ、バルセロナ市議は「社会的経済は19世紀から根付いている。現在4,200ほどの社会的イニシャティブ協同組合がある。資本主義は失敗したが、社会的経済がある。平等・協同の経済が必要」と力説。

米ニューヨーク市議も「市の融資制度で働く者の協同組合をつくる、協同組合教育を充実し、協同組合と中小企業のネットワークを作っている。ブロンクス地区の高校では起業のトレーニングを行い、女性にはクリーニングや介護事業の訓練している。」と発言していました。

パリの副市長は「パリ市は社会的連帯経済(SSE)にコミットしている。これは全てに対する解決策である。SSEにはパリ市民の8人に1人が働いており、若者の半数がSSEで働きたいと言っている。パリ市民にSSEが浸透するように、全てのステークホルダーにワークショップを進める」

と、SSE先進地の自負を持った発言がありました。

ケベック州のサグネ市長も「①過疎化、②産業の衰退、③高齢化、だから社会的経済が必要」と発言しました。

韓国からも発言。社会的経済概念。連帯と協同を使って前進できるよう。良い街に住みたいことを社会的経済で。

またケベック州を含む幾つかの発言者から「フードバンク」の活動も紹介されていました。

【全体会】社会的経済と都市との関係

全体会は引き続いて、4市長に聞く座談会が開かれました。モンドラゴン市長、ソウル市長、バマコ市長、モントリオール市長の4人です。特に、社会的経済と都市との関係では以下のような発言がありました。

<モンドラゴン市長>

モンドラゴン社会的経済のシリコンバレーと呼ばれている。官民協力が特徴。協同組合で働けるように、インターンシップでは半数の企業に採用されている。

<ソウル市長>

条例を定め、中間支援組織をつくり、社会的企業を援助している。最初は援助するが、徐々に自治体の援助は縮小していく、すなわち、社会的企業は自分たちの力を持つようになる。

<バマコ市長>

スイスやデンマークのNGO(非政府組織)と一緒にプロジェクトをつくっている。

それらの援助で、配管工とかのトレーニングをした。そういうことで、地方自治体が最貧困層を助けることができた。

<モントリオール>

SSEで市のサービスが変わる。デベロッパーと協力して低所得者層に住居を提供した。スプロール現象^{*1}を止めるために、ダウンタウンにとどまるような政策をとっている。

【全体会】最終日

最終日の全体会は、今回のフォーラム(GSEF2016)の成果をどう引き継ぐかとテーマです。各国、各地方参加者の会場からの発言が続きました。「社会を変え、地域を活性化する社会的連帯経済(SSE)」という内容での決意表明といったところです。

アフリカからはフランス語圏からの参加や発言が多かった状況にあって、ウガンダ共和国から参加した市長さんは「GSEFの英語圏のための支部をつくりたい」と表明していました。(この市長さんは閉会後のGSEF総会にも出席)。

また、他の国際ネットワーク(RIPESS^{*2}やモンブラン会議など)との連携が報告され、内容面だけではなく、組織的にも提携を強化していく方針が発表されました。

【閉会式】

閉会式では、モントリオール市長が、直前に強行された北朝鮮の核実験に反対し断固韓国を支持する旨の発言をした後、C. I. T. I. E. S. (シティーズ)^{*3}という、社会的連帯経済(SSE)のグローバルな研究・普及組織の結成を報告しました。

次に演壇に立った朴元淳ソウル市長はそれに感謝の意を表すとともに、モントリオール宣言をまとめることができたと報告。都市改革に有効なSSEとは、利益のためではない企業なら誰でもSSEの要素。参加型民主主義、すべてのステークホルダーを巻き込むこと。一国のみでは不可能なので、国際的連携が必要であることを述べ、最後に国連のハビタット3(第3回国連人間居住会議)の重要性を指摘しました。

フォーラム事務局長のジェーン・マルタン・オーサンさんは「社会的連帯経済(SSE)は大志を抱くことが重要」と強調し、州政府やカナダ政府に感謝の意を表明しました。

その後、ケベック州首長(市長)会議代表が挨拶の後、ケベック州政府の大臣が挨拶に立ち、「大志を持って、起業家精神を大切に！ケベック州を連帯の社会に！」と発言しました。

*1 スプロール現象：都市の中心部から周辺へ無秩序・無計画に開発が広がっていく現象。通常、生活や教育などのインフラが追いつかない。

*2 RIPESS : Réseau Intercontinental de Promotion de l'Économie Sociale et Solidaire (社会的連帯経済振興国際ネットワーク)

*3 C. I. T. I. E. S. : Centre International de Transfert d'Innovations et de Connaissances en Économie Sociale et Solidaire (社会的連帯経済導入普及国際センター)

4. GSEF総会

フォーラムの終了後にGSEF総会が開かれ、2018年までの議長都市を引き続きソウル市とし、労協連も引き続き運営委員団体となりました。

【承認された主要議案】

- 次回GSEF2018と総会の開催地の確定
スペイン。バスク自治州のビルバオ市として確認。
- 議長都市と共同議長の選出
ソウル市をGSEFの議長都市として選出。共同議長に、朴元淳^{パクウォンスン}ソウル市長と宋キョンヨン^{ソン}・ソウル社会的経済ネットワーク理事長を再選。
- 新会員の承認
RIPESS、モンブラン会議、ビルバオ市、台中市(台湾)、バマコ市(マリ)、メキシコ市議会(メキシコ)、ミレニアム・ハウス(ケベック州)、INDC(チュニジア／モロッコ)*⁴、市民教育ネッ

トワーク(DRC)、社会的経済ネットワーク(エクアドル)

■ 2016-2018運営委員選出

RIPESS、モンブラン会議、ビルバオ市、および日本労協連など現運営委員。

■ GSEFが主要な国際SSEネットワークに加入。: RIPESS、モンブラン会議(国際ネットワーク)他。

RIPESSには会員として、モンブラン会議には理事として、またSSE国際主導グループにはオブザーバーとして参加。



以上

*4 INDC : Institut des Nations pour le Développement et la Coopération Internationale Etudes et Recherches Stratégiques, Société de l'Information et les NTIC. (英 : Nations Institute for the Development and the International Cooperation, Strategic Study and Research, Information Society and the NICT)